

授 業 科 目 名	進路指導・キャリア教育(Career Guidance and Career Education)		
科 目 番 号	9802111	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋学期	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	藤田 晃之		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 9:30-10:30 (休業期間を除く)		
授 業 の 到 達 目 標	<p>1) 進路指導・キャリア教育の概念とその意義を理解している。</p> <p>2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の必要性や意義を理解し、具体的な指導の在り方を例示することができる。</p> <p>3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>4) キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。</p> <p>5) ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。</p> <p>6) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。</p> <p>7) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方を理解し、具体的な実践方法を例示することができる。</p>		
授 業 の 概 要	進路指導とそれを包含するキャリア教育について双方の定義や概念を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った教育実践、評価改善の推進の在り方やガイダンスとカウンセリングの充実方策、学校内外の組織的な体制づくり等について講義する。		
授 業 計 画	<p>本講義は、オンライン(オンデマンド型)で実施する。具体的には、manaba において情報を集約して提供する。例えば、動画(Microsoft Stream)へのリンク情報の提示、テキスト以外に追加資料がある場合の資料配付、レポート課題の提示等、すべて manaba にて行う。</p> <p>第 1 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(1)—日本への導入以前の展開で</p> <p>第 2 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(2)—戦後日本における職業指導・進路指導の展開</p> <p>第 3 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(3)—キャリア教育の提唱とその後の推進施策</p> <p>第 4 回 小学生・中学生・高校生のキャリア発達課題</p> <p>第 5 回 教育活動全体を通じた実践(1)—教科を中心に</p> <p>第 6 回 教育活動全体を通じた実践(2)—カリキュラム・マネジメントの重要性</p> <p>第 7 回 職場における体験的活動の計画と実践</p> <p>第 8 回 ガイダンスとカウンセリング</p> <p>第 9 回 児童生徒の変容・成長をめぐる評価</p> <p>第 10 回 実践を支える校内組織と家庭・社会との連携の在り方 レポートの提出</p> <p>なお、出席の確認は、講義動画の視聴確認(manaba 内に自動的に記録されるため、受講者による記録や申請は必要ない)及び毎回の小レポート(150 字~400 字)によって行う。動画の視聴と小レポートの提出が揃って 1 回分の出席となる。理由によらず、実施した授業回数数の 3 分の 1 を越える欠席があった場合には、単位を認定しない。</p>		
成 績 評 価 方 法	主としてレポートの成績により評価する。		
テ キ ス ト	吉田武男監修、藤田晃之編(2018)『キャリア教育 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房 ※第 1 回講義から使用する。各自、事前に準備しておくこと。		

参 考 文 献	<p>仙崎・野々村・渡辺・菊池(2004)『入門 進路指導・相談』福村出版          文部科学省(2011)『中学校 キャリア教育の手引き』教育出版          文部科学省(2011)『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版          国立教育政策研究所(2013)『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』実業之日本社          国立教育政策研究所(2015)『子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」—キャリア教育を一步進める評価—』(同研究所公式ウェブサイトに掲載)          藤田晃之(2019)『キャリア教育 フォー・ビギナーズ』実業之日本社</p>
授業外における 学 習 方 法	
受講学生に望むこと	<p>標準履修年次を守って履修すること。(3年次・4年次生対象。やむを得ない理由により2年次で履修しなくてはならない場合には、事前に必ず相談すること。)</p>
備 考	<p>旧課程の進路指導に対応。</p>

授 業 科 目 名	進路指導・キャリア教育(Career Guidance and Career Education)		
科 目 番 号	9802211	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	月曜・5 時限
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	藤田 晃之		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 9:30-10:30 (休業期間を除く)		
授 業 の 到 達 目 標	<p>1) 進路指導・キャリア教育の概念とその意義を理解している。</p> <p>2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の必要性や意義を理解し、具体的な指導の在り方を例示することができる。</p> <p>3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>4) キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。</p> <p>5) ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。</p> <p>6) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。</p> <p>7) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方を理解し、具体的な実践方法を例示することができる。</p>		
授 業 の 概 要	進路指導とそれを包含するキャリア教育について双方の定義や概念を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った教育実践、評価改善の推進の在り方やガイダンスとカウンセリングの充実方策、学校内外の組織的な体制づくり等について講義する。		
授 業 計 画	<p>本講義は、オンライン(オンデマンド型)で実施する。具体的には、manaba において情報を集約して提供する。例えば、動画(Microsoft Stream)へのリンク情報の提示、テキスト以外に追加資料がある場合の資料配付、レポート課題の提示等、すべて manaba にて行う。</p> <p>第 1 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(1)—日本への導入以前の展開で</p> <p>第 2 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(2)—戦後日本における職業指導・進路指導の展開</p> <p>第 3 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(3)—キャリア教育の提唱とその後の推進施策</p> <p>第 4 回 小学生・中学生・高校生のキャリア発達課題</p> <p>第 5 回 教育活動全体を通じた実践(1)—教科を中心に</p> <p>第 6 回 教育活動全体を通じた実践(2)—カリキュラム・マネジメントの重要性</p> <p>第 7 回 職場における体験的活動の計画と実践</p> <p>第 8 回 ガイダンスとカウンセリング</p> <p>第 9 回 児童生徒の変容・成長をめぐる評価</p> <p>第 10 回 実践を支える校内組織と家庭・社会との連携の在り方 レポートの提出</p> <p>なお、出席の確認は、講義動画の視聴確認(manaba 内に自動的に記録されるため、受講者による記録や申請は必要ない)及び毎回の小レポート(150 字~400 字)によって行う。動画の視聴と小レポートの提出が揃って 1 回分の出席となる。理由によらず、実施した授業回数数の 3 分の 1 を越える欠席があった場合には、単位を認定しない。</p>		
成 績 評 価 方 法	主としてレポートの成績により評価する。		
テ キ ス ト	吉田武男監修、藤田晃之編(2018)『キャリア教育 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房 ※第 1 回講義から使用する。各自、事前に準備しておくこと。		

実施方法：オンライン（オンデマンド型）

参 考 文 献	仙崎・野々村・渡辺・菊池(2004)『入門 進路指導・相談』福村出版 文部科学省(2011)『中学校 キャリア教育の手引き』教育出版 文部科学省(2011)『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版 国立教育政策研究所(2013)『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』実業之日本社 国立教育政策研究所(2015)『子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」—キャリア教育を一步進める評価—』(同研究所公式ウェブサイトに掲載) 藤田晃之(2019)『キャリア教育 フォー・ビギナーズ』実業之日本社
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	
受 講 学 生 に 望 む 事 項	標準履修年次を守って履修すること。(3年次・4年次生対象。やむを得ない理由により2年次で履修しなくてはならない場合には、事前に必ず相談すること。)
備 考	旧課程の進路指導に対応。

授 業 科 目 名	進路指導・キャリア教育(Career Guidance and Career Education)		
科 目 番 号	9802321	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋学期	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	藤田 晃之		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 9:30-10:30 (休業期間を除く)		
授 業 の 到 達 目 標	<p>1) 進路指導・キャリア教育の概念とその意義を理解している。</p> <p>2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の必要性や意義を理解し、具体的な指導の在り方を例示することができる。</p> <p>3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>4) キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。</p> <p>5) ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。</p> <p>6) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。</p> <p>7) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方を理解し、具体的な実践方法を例示することができる。</p>		
授 業 の 概 要	進路指導とそれを包含するキャリア教育について双方の定義や概念を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った教育実践、評価改善の推進の在り方やガイダンスとカウンセリングの充実方策、学校内外の組織的な体制づくり等について講義する。		
授 業 計 画	<p>本講義は、オンライン(オンデマンド型)で実施する。具体的には、manaba において情報を集約して提供する。例えば、動画(Microsoft Stream)へのリンク情報の提示、テキスト以外に追加資料がある場合の資料配付、レポート課題の提示等、すべて manaba にて行う。</p> <p>第 1 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(1)—日本への導入以前の展開で</p> <p>第 2 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(2)—戦後日本における職業指導・進路指導の展開</p> <p>第 3 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(3)—キャリア教育の提唱とその後の推進施策</p> <p>第 4 回 小学生・中学生・高校生のキャリア発達課題</p> <p>第 5 回 教育活動全体を通じた実践(1)—教科を中心に</p> <p>第 6 回 教育活動全体を通じた実践(2)—カリキュラム・マネジメントの重要性</p> <p>第 7 回 職場における体験的活動の計画と実践</p> <p>第 8 回 ガイダンスとカウンセリング</p> <p>第 9 回 児童生徒の変容・成長をめぐる評価</p> <p>第 10 回 実践を支える校内組織と家庭・社会との連携の在り方 レポートの提出</p> <p>なお、出席の確認は、講義動画の視聴確認(manaba 内に自動的に記録されるため、受講者による記録や申請は必要ない)及び毎回の小レポート(150 字~400 字)によって行う。動画の視聴と小レポートの提出が揃って 1 回分の出席となる。理由によらず、実施した授業回数数の 3 分の 1 を越える欠席があった場合には、単位を認定しない。</p>		
成 績 評 価 方 法	主としてレポートの成績により評価する。		
テ キ ス ト	吉田武男監修、藤田晃之編(2018)『キャリア教育 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房 ※第 1 回講義から使用する。各自、事前に準備しておくこと。		

参 考 文 献	<p>仙崎・野々村・渡辺・菊池(2004)『入門 進路指導・相談』福村出版          文部科学省(2011)『中学校 キャリア教育の手引き』教育出版          文部科学省(2011)『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版          国立教育政策研究所(2013)『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』実業之日本社          国立教育政策研究所(2015)『子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」—キャリア教育を一步進める評価—』(同研究所公式ウェブサイトに掲載)          藤田晃之(2019)『キャリア教育 フォー・ビギナーズ』実業之日本社</p>
授業外における 学 習 方 法	
受講学生に望むこと	<p>標準履修年次を守って履修すること。(3年次・4年次生対象。やむを得ない理由により2年次で履修しなくてはならない場合には、事前に必ず相談すること。)</p>
備 考	<p>旧課程の進路指導に対応。</p>

授 業 科 目 名	進路指導・キャリア教育(Career Guidance and Career Education)		
科 目 番 号	9802511	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	秋学期	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	藤田 晃之		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 9:30-10:30 (休業期間を除く)		
授 業 の 到 達 目 標	<p>1) 進路指導・キャリア教育の概念とその意義を理解している。</p> <p>2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の必要性や意義を理解し、具体的な指導の在り方を例示することができる。</p> <p>3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>4) キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。</p> <p>5) ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。</p> <p>6) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。</p> <p>7) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方を理解し、具体的な実践方法を例示することができる。</p>		
授 業 の 概 要	進路指導とそれを包含するキャリア教育について双方の定義や概念を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った教育実践、評価改善の推進の在り方やガイダンスとカウンセリングの充実方策、学校内外の組織的な体制づくり等について講義する。		
授 業 計 画	<p>本講義は、オンライン(オンデマンド型)で実施する。具体的には、manaba において情報を集約して提供する。例えば、動画(Microsoft Stream)へのリンク情報の提示、テキスト以外に追加資料がある場合の資料配付、レポート課題の提示等、すべて manaba にて行う。</p> <p>第 1 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(1)—日本への導入以前の展開で</p> <p>第 2 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(2)—戦後日本における職業指導・進路指導の展開</p> <p>第 3 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(3)—キャリア教育の提唱とその後の推進施策</p> <p>第 4 回 小学生・中学生・高校生のキャリア発達課題</p> <p>第 5 回 教育活動全体を通じた実践(1)—教科を中心に</p> <p>第 6 回 教育活動全体を通じた実践(2)—カリキュラム・マネジメントの重要性</p> <p>第 7 回 職場における体験的活動の計画と実践</p> <p>第 8 回 ガイダンスとカウンセリング</p> <p>第 9 回 児童生徒の変容・成長をめぐる評価</p> <p>第 10 回 実践を支える校内組織と家庭・社会との連携の在り方 レポートの提出</p> <p>なお、出席の確認は、講義動画の視聴確認(manaba 内に自動的に記録されるため、受講者による記録や申請は必要ない)及び毎回の小レポート(150 字~400 字)によって行う。動画の視聴と小レポートの提出が揃って 1 回分の出席となる。理由によらず、実施した授業回数数の 3 分の 1 を越える欠席があった場合には、単位を認定しない。</p>		
成 績 評 価 方 法	主としてレポートの成績により評価する。		
テ キ ス ト	吉田武男監修、藤田晃之編(2018)『キャリア教育 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房 ※第 1 回講義から使用する。各自、事前に準備しておくこと。		

参 考 文 献	<p>仙崎・野々村・渡辺・菊池(2004)『入門 進路指導・相談』福村出版          文部科学省(2011)『中学校 キャリア教育の手引き』教育出版          文部科学省(2011)『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版          国立教育政策研究所(2013)『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』実業之日本社          国立教育政策研究所(2015)『子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」—キャリア教育を一步進める評価—』(同研究所公式ウェブサイトに掲載)          藤田晃之(2019)『キャリア教育 フォー・ビギナーズ』実業之日本社</p>
授業外における 学 習 方 法	
受講学生に望むこと	<p>標準履修年次を守って履修すること。(3年次・4年次生対象。やむを得ない理由により2年次で履修しなくてはならない場合には、事前に必ず相談すること。)</p>
備 考	<p>旧課程の進路指導に対応。</p>

授 業 科 目 名	進路指導・キャリア教育(Career Guidance and Career Education)		
科 目 番 号	9802521	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	月曜・5 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	体育学生主対象		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	藤田 晃之		
オ フ ィ ス ア ウ ー	水曜日 9:30-10:30 (休業期間を除く)		
授 業 の 到 達 目 標	<p>1) 進路指導・キャリア教育の概念とその意義を理解している。</p> <p>2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の必要性や意義を理解し、具体的な指導の在り方を例示することができる。</p> <p>3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>4) キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。</p> <p>5) ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。</p> <p>6) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。</p> <p>7) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方を理解し、具体的な実践方法を例示することができる。</p>		
授 業 の 概 要	進路指導とそれを包含するキャリア教育について双方の定義や概念を明らかにした上で、進路指導・キャリア教育の視点に立った教育実践、評価改善の推進の在り方やガイダンスとカウンセリングの充実方策、学校内外の組織的な体制づくり等について講義する。		
授 業 計 画	<p>第 1 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(1)—日本への導入以前の展開</p> <p>第 2 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(2)—戦後日本における職業指導・進路指導の展開</p> <p>第 3 回 進路指導・キャリア教育の歴史的展開(3)—キャリア教育の提唱とその後の推進施策</p> <p>第 4 回 小学生・中学生・高校生のキャリア発達課題</p> <p>第 5 回 教育活動全体を通じた実践(1)—教科を中心に</p> <p>第 6 回 教育活動全体を通じた実践(2)—カリキュラム・マネジメントの重要性</p> <p>第 7 回 職場における体験的活動の計画と実践</p> <p>第 8 回 ガイダンスとカウンセリング</p> <p>第 9 回 児童生徒の変容・成長をめぐる評価</p> <p>第 10 回 実践を支える校内組織と家庭・社会との連携の在り方</p> <p>定期試験</p>		
成 績 評 価 方 法	主として単位認定試験の成績により評価する。		
テ キ ス ト	吉田武男監修、藤田晃之編(2018)『キャリア教育 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房 ※第 1 回講義から使用する。各自、事前に準備しておくこと。		
参 考 文 献	<p>仙崎・野々村・渡辺・菊池(2004)『入門 進路指導・相談』福村出版</p> <p>文部科学省(2011)『中学校 キャリア教育の手引き』教育出版</p> <p>文部科学省(2011)『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版</p> <p>国立教育政策研究所(2013)『キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書』実業之日本社</p> <p>国立教育政策研究所(2015)『子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」—キャリア教育を一步進める評価—』(同研究所公式ウェブサイトに掲載)</p> <p>藤田晃之(2019)『キャリア教育 フォー・ビギナーズ』実業之日本社</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法			
受 講 学 生 に 望 む こ と	標準履修年次を守って履修すること。(3 年次・4 年次生対象。やむを得ない理由により 2 年次で履修しなくてはならない場合には、事前に必ず相談すること。)		
備 考	旧課程の進路指導に対応。		